

2023年12月改訂（第1版）

日本標準商品分類番号

872669

貯法：室温保存

有効期間：3年

承認番号 16000AMZ05459000

販売開始 1977年10月

皮膚軟化剤

日本薬局方 イオウ・カンフルローション

イオウ・カンフルローション「東豊」

Sulfur and Camphor Lotion

2. 禁忌（次の患者には投与しないこと）
本剤に対し過敏症の既往歴のある患者

3. 組成・性状

3.1 組成

有効成分	1mL 中 イオウ 60mg dl-カンフル 5mg
添加剤	ヒドロキシプロピルセルロース、水酸化カルシウム、パラオキシ安息香酸エチル、パラオキシ安息香酸ブチル、エタノール

3.2 製剤の性状

性状	淡黄色の懸濁液で、放置するとき、成分の一部を分離する。
----	-----------------------------

4. 効能又は効果

痒瘡、酒さ

6. 用法及び用量

1日2回患部に塗布する。朝は上清液、晩は混濁液を用いる。

9. 特定の背景を有する患者に関する注意

9.5 妊婦

妊婦又は妊娠している可能性のある女性には、治療上の有益性が危険性を上回ると判断される場合にのみ投与すること。

9.6 授乳婦

治療上の有益性及び母乳栄養の有益性を考慮し、授乳の継続又は中止を検討すること。

11. 副作用

次の副作用があらわれることがあるので、観察を十分に行い、異常が認められた場合には使用を中止するなど適切な処置を行うこと。

11.2 その他の副作用

	頻度不明
過敏症	発赤、発疹等
皮膚	皮膚炎

14. 適用上の注意

14.1 薬剤調製時の注意

14.1.1 本剤を小分けするときは容器をよく洗い、本剤をよく振り混ぜて、成分が均等になるように小分けすること。

14.2 薬剤使用時の注意

14.2.1 眼又は眼の周囲には使用しないこと。

14.2.2 他の薬剤、化粧品等が混入しないように注意すること。

18. 薬効薬理

18.1 作用機序

イオウは、皮膚表面で徐々に硫化水素やポリチオン酸、特にペンタチオン酸となり抗菌作用をあらわすので、寄生性皮膚疾患に奏効する。また皮膚角化に関係があるといわれる SH 基を S-S に変えることによって角質軟化作用を呈する。イオウの粒子が細くなるほどイオウの化学変化は促進されるので、コロイドイオウを用いるとき上記の諸作用は特に顕著にあらわれ、また、アルカリ剤と配合すると角質軟化、殺菌、殺虫作用は増強される¹⁾。

カンフルは、健康な皮膚を刺激して軽い炎症を起こすことにより反射的に局所の血管を拡張させる。したがって、栄養状態の悪い皮膚、局所の疾患の治癒を促進する。皮膚、粘膜から吸収される²⁾。

19. 有効成分に関する理化学的知見

19.1 イオウ

一般的名称：イオウ (Sulfur)

化学式：S

原子量：32.07

性状：淡黄色～黄色の粉末で、におい及び味はない。

二硫化炭素に溶けやすく、水、エタノール (95) 又はジエチルエーテルにほとんど溶けない。

19.2 dl-カンフル

一般的名称：dl-カンフル (dl-Camphor)

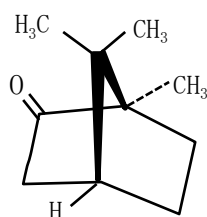
化学名：(1R, 4R)-1, 7, 7-Trimethylbicyclo[2. 2. 1]heptan-2-one

CAS No. : 76-22-2

分子式：C₁₀H₁₆O

分子量：152.23

化学構造式



及び鏡像異性体

性状：無色又は白色半透明の結晶、結晶性の粉末又は塊で、特異な芳香があり、味はわずかに苦く、清涼味がある。

エタノール (95)、ジエチルエーテル又は二硫化炭素に溶けやすく、水に溶けにくい。

室温で徐々に揮散する。

20. 取扱い上の注意

- 20.1 開封後は冷所に保存すること。
- 20.2 空気中の炭酸ガスを吸収して炭酸カルシウムの浮遊物がみられることがある。

22. 包装

500mL (ポリ容器)

23. 主要文献

- 1) 第十八改正日本薬局方解説書：廣川書店，2021；C-501
- 2) 第十八改正日本薬局方解説書：廣川書店，2021；C-1492

24. 文献請求先及び問い合わせ先

東豊薬品株式会社 学術部
〒124-0025 東京都葛飾区西新小岩 4-15-3
電話 03-3694-4781
FAX 03-3694-4787

26. 製造販売業者等

26.1 製造販売元
東豊薬品株式会社
〒124-0025 東京都葛飾区西新小岩 4-15-3